

道心



禅昌寺通信「道心」第42号

編集 日光山禅昌寺「道心」編集室

発行 平成 25 年 1 月 1 日

〒732-0002 広島市東区戸坂山根 3-2-7

TEL 082-229-0618 FAX 082-229-0822

E-mail: zenshoji@hicat.ne.jp

ホームページ <http://zenshoji.org/>

改歳之令辰

かい さい の れい しん

旧年中のご厚誼に感謝し、
皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

昨年は、私にとりましてこれまで以上に忙しい年となりました。

その為か、坐禅を組んで静かに自己を振り返る時間がとても有難く
感じた年でもありました。心を静めて自他を見渡すと、

なんとご都合主義の多いことが、自分の独断的偏見で人を見たり、

自分の好き嫌いで物事を判断したり、自分と同じ価値観や経験知識を
持たない人を見下したり、たった七十億分の一の人生経験を

全ての判断基準として、断定的な判断をしてしまふ。本当にこれで良いのか、

これは独りよがりな考えではないか、こんな言い方をしたら相手は

傷つかないか、と常に振りかえりながら、何度も何度も自分の心を静めては、
進んでいく、こういう姿勢が大切だなとつくづく思うのです。

失敗したらその人はごめんなさいの心を、周りの人は許す心を持ち。

人の欠点を見たら、その人の良い面も見る。簡単に人に対して

断定的な判断をしない。そういう心が持てれば、争い事は減るでしょう。

日本の高度成長を支え、世界第一位の経済大国日本を作り上げた時代には、
何でも行け行けゴーゴーで、これが絶対に正しい方向だということ

手に取るように示されていたことでしょう。でも今は混迷の時代で

憂いのある人も多いのです。お寺には様々な世代の人や

考え方の異なる人が出入りし、その全ての人々が、お互いから大切なことを

学び合う仏さまの宝です。私も何度も何度も自己を振り返りながら、

大きく寛い心をもって、縦横無尽にその心を働かすことが出来るよう

精進努力していきたいと思っています。

お詫び

曹洞宗では、日本全国を九つの管区に分けて宗派としての本部布教を推進し、教化活動に必要な研究や情報の収集を行っている教化センターという機関があります。

昨年四月、私はこの曹洞宗中国管区教化センターの主監というお役目を拝命いたしました。任期は二年ですが、山積みされている課題が多くあり、想像以上に大変なお役目で、基本的にはセンター事務所に常勤し、中国地方各地を飛び回っております。

このような状況でございますので、檀信徒及び関係者の皆様には、ご迷惑をお掛けしていることと存じます。

宗門からこのお話があった時、私は度々お断りいたしました。止むを得ずお引き受けした次第です。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

禅昌寺住職 横山泰賢 合掌

菩薩の修行

禅昌寺住職 横山 泰賢

布施 (施しをする)
持戒 (戒律をまもる)
忍辱 (辛抱する)
精進 (努力する)
禅定 (坐禅する)
般若 (般若の智慧)

前回ご紹介した菩薩が行うべき六波羅蜜の修行についてお話しいたします。

波羅蜜とは、パーラミター (Paramita) というサンスクリット語を漢字に音訳した言葉で、到彼岸又は完成という意味で、彼岸へ到るための六つの修行ということです。

仏教では、自分の欲求を満たすために右往左往し、欲望が満たされないと苦しんだり、怒ったり、自分の欲望が満たされると、満足して幸福を感じるというように、欲望に振り回され、六道輪廻 (天上、人間、餓鬼、畜生、阿修羅、地獄) を流転する世界を此岸といっています。

その反対に、自分の欲望を満足させることを目的として生きるのではなく、仏さまの道を求め、そのことを誓願として生きる世界を彼岸といっています。

此岸も彼岸も六道輪廻も私達の生きる姿勢の問題なのですが、頭で理解するだけでは私たちの生きる姿勢や価値観を変えることはできません。人が亡くなることを、涅槃に入るとか彼岸へ渡るとかいいますが、本当は生きている間に、

私たちの生き方や価値観を彼岸の生き方に転換させることが彼岸に渡るということなのです。そのために必要な修行とされたのが六波羅蜜の修行なのです。

布施とは、人に物を施すということですが、自分の所有する物や時間、エネルギーを自分だけのものだと思う、困っている人がいれば、それを惜しまずに施すということです。自分も施し施され生きているということに気づいて生きていることが大切です。様々な人や自然の中でいつの間にか生かされている自分が居ることに感謝しなければなりません。

持戒とは、文字通り戒を持つということです。自分を戒め振り返りながら、規則正しい生活をし、心を正しながら生きていくということ、謙虚な生活態度です。

忍辱とは、辛抱することです。自分以外の人々と共存していくからには、辛抱が必要です。自分の都合ばかりを主張しては、うまく和合できません。

精進とは、努力するということで、怠けないで前向きに努力するということです。

禅定とは、坐禅のことです。坐禅会に来ることが難しい人でも、ご自宅のお仏壇の前で静かに正座され、心に浮かんでくることを掴まず追わず払わず、只管坐ってみてください。普段見落としている自己に気づき、自分自身を振り返る機会となり、心が静まります。

般若とは、サンスクリット語を音訳した言葉で、智慧という意味です。しかし、世間一般でいう智慧ではなく、この世をありのままにみる智慧であり、般若経が説く「空」をみる智慧ということ。空とは、私たちの心も体もこの大宇宙もその実体はなく、様々な条件や要素の

寄せ集め (縁起) として存在しているということです。

例えば、私自身を分析してみますと、広島のお寺で生まれた日本人ですが、その一つの条件が違っただけで、私の人生は大きく変わっていたでしょう。しかし、広島、お寺で生まれた、日本人という三つの条件はどれも私が選択したものではありません。偶然整った条件です。その偶然に、勉強しなかった悪さをいっぱいした・本をいっぱい読んだ・修行した・外国生活をした・結婚した・子供が出来た・住職した・など様々な条件が重ねられ、その時その時に見たもの・聞いたこと・嗅いだもの・食べたもの・触ったもの・考えたこと・など全ての経験がさらなる要素となって、この自分を創りだしてきています。つまり、その条件や要素次第でいくらでも移り変わっていく「無常」な存在なのだということです。

また、この体も大宇宙も分析してみると、分子、粒子、素粒子、原子、細胞など、様々な要素が融合して構成されており、その実体は無いことが分かります。このことを仏教では「無我」といいます。

お釈迦様は今から二千五百年前に、この無常無我ということに気づかれ悟られたのですから、驚かされます。

このように、大宇宙の摂理をよく理解して、人と接してみてください。人への見方が変わるのではないのでしょうか。また、ものの見方や考え方も変わっていくのではないのでしょうか。

人間なんて本当にちっぽけな存在で、どんなに誇りに思える人生を送ってきたとしても、たった七十億分の一の経験と人生なのです。本当に偉大な方というのは、常に謙虚で、自分が

仏教徒の 行願の實踐

東堂 横山正賢

修証義第四章

発願利生 第二十一節

衆生を利益すといふは四枚の般若あり、
一者布施、二者愛護、三者利行、四者
同事、是れ則ち薩埵の行願なり、其の布
施といふは貪らざるなり、我物に非ざれ
ども布施を障へざる道理あり、其物の輕
きを嫌はず、其功の実なるべきなり、然
れば則ち一句一偈の法をも布施すべし、
此生佗生の善種となる、一錢一草の財を
も布施すべし、此世佗世の善根を兆す、
法も財なるべし、財も法なるべし、但彼
が報謝を貪らず、自からが力を煩つな
り、舟を置き橋を渡すも布施の檀度なり、
治生産業固より布施に非ざること無し。

一番正しいという態度をとらない方が多いのだ
と思います。

こうして無常無我の現実とあらためて向き
合ってみると、人間は頼りない存在です。です
から、お釈迦様（仏）・仏様の教え（法）・仏様
のコミュニケーション（僧）に帰依をし、またこの

直訳しますと、薩埵と言うのは仏道修行者又
仏教徒のことをいうのです、従って仏教徒とし
ての生き方・生きる姿勢をお示しになっている
のです、衆生（生きとし生けるもの）の為に奉
仕するには四つの大事な智慧があると、その一
つは布施であります、お坊さんやお寺に対して
するお布施は、布施行の一つではありますが、
布施という意味はもつともっと広い行為をいう
のです。舟を置き、橋を渡すも布施の行為であり、
政治も産業を営むことも、人に対する奉仕の全
てに布施の精神で営むことを言われております。

人や動物たちなどに施しをする際に、してあ
げるとか、してやつとるとか、他に対してする
行為が、対価を期待してする行為を貪ると言う
のです。そうなるともう布施という行為では無
くなるのです。

「我物に非ざれども布施を障へざる道理あり、其
物の輕きを嫌はず、其功の実なるべきなり、」私
たちは、誰もがこの身を我が物、我が命と受け
とめ、法律や社会秩序からしても当然のことで
ありますが、佛教の立場から申しますと、全て
は天地の恵であり、自然のものであり、佛の御
命であります。

自由自在に自分の思うようになるものは何一
つ無いのであるが、布施の真心さえあれば、出
来ないというものは無い、布施の行為の外見が

仏法僧を仏教徒の三宝として生きていくのが菩
薩なのです。そして、その菩薩の修行が六波羅
蜜の修行であり、般若の智慧がなければ、前の
五つの波羅蜜も空回りの修行となるでしょう。
般若心経とその実践を通して皆様と共に学ん
でいきたいと思っております。

良いとか悪いとか、多いとか少ないとか、重い
とか軽いとか凡夫の浅ましさを無くした、真実
を行うことであります。

折しも衆議院議員の選挙のまっただ中にあり
ますが、どの政党も理想的な公約を掲げてはい
ませんが、何年ものあいだ、目先の欲望に満ちた
国民の要望に応えんとする政治のあり方が、国
民一人当たり七百万円とも八百万円ともいわれ
る借金を作ってしまった。

真心のこもった社会の確立とは何かを考えさ
せられる御教えの一節ではないでしょうか。

「然れば則ち一句一偈の法をも布施すべし、此
生佗生の善種となる、一錢一草の財をも布施す
べし、此世佗世の善根を兆す、法も財なるべし、
財も法なるべし」この一節は非常に大切なこと
を示唆されています。

何事にも大きなことよりも、繊細なところず
かいを大事にし、此生佗生と此世佗世は同じ意
味です、現代と将来、この世と次の世のことで、
今行う布施の行為が、現代に置いても将来に置
いても、この世に有っても次の世に有っても善
き種となり、善き根つこととして、法（教え）が
財となり、財が法（教え）となつて普遍してい
く生き方を論じておられるのであります。

政治や経済活動の本来の使命は布施の行為と
して営まれることをお願いいたします。

過ぎ行く時の無常とこと

大切さを諷った名詩

矢野 淑子

偶成 ぐう せい

朱熹 しゆ き

少年易老學難成 しょうねんおやす 少年老い易く 学成り難し

一寸光陰不可輕 いっすん こういん 一寸の光陰 軽んずべからず

未覚池塘春草夢 ちとう しゆんそう ゆめ 池塘の春草の夢 未だ覚めやらすして

階前梧葉已秋聲 かいぜん ごよう すでに秋声

幼少より、学問を志しながら、
そろそろ老いを迎える年齢になっても、
未だ、大きな成果を果たせずにいる。

もはや、残り少ない人生だからこそ、
ほんの瞬きする刹那*ですら、
時をおろそかにしてはならない。

春の池の堤に、萌えはじめた若草の
ごとき瑞々しい、大志への夢は、
いまも変わらず覚めていないのに、

ふと気がつけば、石段の脇に繁る
梧葉の葉が秋の訪れで、いつしか
色づいているように、自分自身が

人生の秋ともいふべき初老の時期に
さしかかってしまった。

あの葉がやがて、儚く散ってゆくのと
同様に、自分もこのまま、志を遂げる
ことなく、いずれはこの世を去るばかり
なのだろうか。

止めるすべもなく、無常にも時間だけが
移ろい、ただ過ぎ去ってゆく……。

少年よ大志をいだけ

クラーク博士

(北海道大学の庭に胸像を設置)

私は、この言葉もまた、

捨てがたいのです――

これ等の、詩や言葉は、学生時代に
習い、また、習っておられない方でも、
どこか聞き覚えのある旋律に、心が動
かされたと思います。

学問と同様に、青春も、又、またた
く間に、過ぎ去って行くものでもあり
ます。

広島が生んだ「倉田百三(著・出家
とその弟子・庄原出身)」の格言に――

青春は短い

宝石の如くにして

それを惜しめ

夢見ること忘れるとき

青春は終わるのである

青春は当り前で、それを誰しもが気
にも止めず、短い時間だとも思わず、
また、その青春時代を宝石とも思わず、
惜しみもせずに過ぎてきました。

今、老いて振り返ると「学問」「青春」
「歳月」は、人生に於て、実に大切な
時間であつたと、深く痛感しておりま
す。

これから、歳を重ねて、よりよい
人生を送るためにも、青春と云う言葉
を、片隅に於て、心の宝石を磨いて下
さい――。

合わせて、宝石のように輝く、会話
が出来たら、なお幸せです――。

*刹那――きわめて短い時間。

『仏』梵語クシャナの音訳

追憶

青 笹 俊 枝

辞世詩

「殉忠もって父母の恩に答えむ」

男子死ヲ決ス 豈言論ノミナランヤ

五尺ノ体 何ガタメカ今日ニアリ

レイテ湾底深カラズ米英二恨ミ深シ

〃 誓ッテ敢行セン体当タリ

〃 誓ッテ敢行セン体当タリ

昭和二十年四月七日の新聞にこの遺書の通り帝都空襲と同時に名古屋地区にB29が侵入してきた際「これを伊勢湾上空に迎え撃って空中戦の壮烈な体当たりを敢行 敵機を粉砕の後 護国の花と散った」と写真入りで報じられた。十九歳の航空曹長であった。

小学校三年生のとき転校してきた男の子。紺の着物を着て、頭にぐるぐる巻きの包帯をしていた。私の横の席が

空いていたので、先生が優しくしてあげてねといわれ、その席に座らせた。私は可哀想で何から何まで世話をした。おとなしくて私のことは何でも聞いてくれて、勉強もよくできた。私の幼い初恋の人になってしまった。

それが四年生になると、急に小さい私にチョビと仇名をつけて、意地悪がはじまり、逃げて追つかけてきたり、机の上のノートを取って逃げたりした。そのノートの裏に綺麗な字で私の名前が書いてあったりした。私はまたいらんことをと思ったが、そのことだけは、少し嬉しかったことを覚えている。

高等科二年の卒業近い日。教室に二人だけになったとき彼は急に「僕の所へお嫁さんに来てくれるんだろう」と言った。私を何時も苛めてばかりいるのに、またこんなことを言っていると「あんたなんかの所へ誰が行くもんか」と教室を飛び出していった。そのあと会えないまま あれが本心だったら あんなこと言わねばよかったと後悔した。どんなことをされても嫌いにはならない彼だったから。

卒業後、彼は工業学校へ行き、私は台湾へ奉公に行っていた。人伝に彼は学校を止めて少年航空隊へ入ったと聞いた私は、自分が言ったあの暴言が気になった。

何年かたち私は台湾から帰り農業を手伝っていた。カツカツと軍靴の音が近づいてきた。凛々しい軍服姿の彼だった。田んぼの中でみずばらしい自分の姿に身がすくんで、会いに出る事が出来なかった。親類に挨拶にいつているのだと分かったので、帰るときにはと身構えているのにどうしても体は動かず、とうとう出ることができず、軍靴が遠ざかるのを涙を流しながら見えなくなるまで見送っていた。

それから一ヶ月後の戦死の報だった。どうしてあのかとき飛び出して握手してもらい「元気で帰って来て」と言えなかったかと、残念で残念で二三日食もとれず笹刈りに行くと行って山へ行き、涙を流しながら大木に鎌で太い字で戦死した日と名前を彫りつけて来た。あの日の大木の墓標は今どうなっているのだろうか。六十八年前の事である。

伊勢湾にも行ってみたが何処へ沈んでいるのか分からなかった。静かで綺麗な海だった。長年の願いだった墓参りが今年やっと出来て彼と一杯話してきた。もう夢の中だけでなく、浄土で逢える歳になった。いま十九歳の彼はあの最後に見た軍服姿できっと敬礼をして来ると思う。それに返礼が出来るよう今から稽古して置こうと思っている。

◆道心・趣味の会◆

- ・秋の陽の 今かがやきて 沈みゆく
我はたたずむ 永平の道
 - ・電話越し 孫の泣きごえ 春うらら
まめに育てよ 我らを越えて
 - ・かしわ餅 母の姿が 偲ばるる
石臼をひき 小皿に飴盛る
 - ・雨の咲く 赤むらさきの あじさいに
はるけき恋を 語り綴らん
 - ・かしましき 蟬の声過ぎ 草叢の
すずむしの音が 安らぎており
- 神成 昭治

◆行事報告◆(一月〜十二月)

- 年頭坐禅会
正月元旦 午前八時より
海外の方も含め、五名程度の参加者でしたが、清々しい念頭となりました。
- 新年修正会(大般若祈祷会)
正月元旦 午前十時より
徹しい冷え込みの中、家内安全、災障消除、諸縁吉祥をお祈りいたしました。
- 青山俊董老師講演会
二月二十八日(火)
正法眼蔵現成公案巻の御提唱
七十名ほどの参加者があり、皆さんと共に法悦に浸りました。
- 彼岸会法要・護持会総会
三月十七日(土) 午前十時半より
百五十名ほどの参拝者があり、彼岸会法要続き、護持会総会開催。また、四月に開催された広島和太鼓の演奏が紹介されました。
- 爽やかコンサート
四月二十一日(土) 午後六時より
今年は、禅昌寺檀信徒で安佐南区のむげん塾

塾長大谷浩司さん主宰の「広島太鼓友の会」による「千年の過去から千年の未来へ」と題した広島和太鼓のコンサートを開催。爽快でパワフルな地太鼓に感動しながら、伝統芸能を味わいました。

- お盆前諸堂大掃除
七月二十九日(日) 午前十時より
三十名のご奉仕により一時間半程で終わりました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。
- 盂蘭盆会法要
八月六日(月) 午前十時半より
例年同様約百五十名の参拝者で賑わいました。
- 青山俊董老師講演会
九月三十日(日)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱
六十五名ほどの参加者があり、大変分かり易い老師のお話を聞き、皆が法悦に浸りました。

- お月見コンサート
十月六日(土) 午後十八時半より
オペラ歌手として欧州の舞台で長年に亘り活躍された番場ちひろさんを迎え、開催。番場さんのソプラノの歌声に、約二百七十名の参加者は魅了され、心を和ませました。
- 第一回 北陸三十三カ所観音霊場巡り
十月二十四日(水) 二十六日(金)

第一番中山寺(福井県)から第十四番観音院(石川県)を参加者十五名の皆さんが東堂夫妻と共に巡拝されました。

- 臘八摂心坐禅会
十二月一日(土) 八日(土)
例年より多くの皆さんと共に坐らせていただき、誠に有り難い摂心でした。

◆行事案内◆(一月〜十二月)

- 年頭坐禅会
正月元旦 午前八時より
- 新年修正会(大般若祈祷会)
正月元旦 午前十時より
新年のご祈祷会です。家内安全、災障消除、諸縁吉祥等をご祈祷いたします。

- 青山俊董老師講演会
二月二十八日(木)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱

- 午前部 十時半〜十二時
- 午後部 十三時半〜三時
- 参加費 午前午後 各千円
- 昼食代 一人 百円
- *坐禅をされる方は九時より
- *昼食を希望される方は、予め電話にてお申し込み下さい。

- 彼岸会法要・護持会総会
三月十七日(日) 午前十時半より

例年通り、彼岸会法要に続き護持会総会を開催。お弁当とお茶を準備しております。

- 第二回 北陸三十三カ所観音霊場巡り
四月十八日(木) 二十日(土)

第十五番總持寺祖院(石川県)から第二十四番国泰寺まで十ヶ寺を温泉に浸かりながら巡ります。北陸の美しい豊かな自然に調和して生き続ける観音浄土の霊場巡りです。参加費は二十名の場合 五万円

- お盆前諸堂大掃除
七月二十八日(日) 午前十時より

お子さんお孫さんとご一緒に参加下さい。二時間ほどを予定。お昼を準備してお待ちいたしております。

- 盂蘭盆会法要
八月六日(火) 午前十時半より

法要引き続き法話がございます。

- 青山俊董老師講演会
九月三十日(月)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱

- 午前部 十時半〜十二時
- 午後部 十三時半〜三時
- 参加費 午前午後 各千円
- 昼食代 一人 百円
- *坐禅をされる方は九時より
- *昼食を希望される方は、予め電話にてお申し込み下さい。

- お月見コンサート
十月五日(土) 予定

*現在、内容や日程について調整中

- 第三回 北陸三十三カ所観音霊場巡り
十一月中

第二十五番蓮華寺(富山県)から第三十三番法福院(富山県)まで九ヶ寺と永平寺を巡ります。
*詳細については後日お知らせいたします。

- 臘八摂心坐禅会
十二月一日(日) 八日(日)

午前五時より六時十分まで
午後七時 より八時半まで
*年内の坐禅会は、八日の早朝坐禅をもってお休みします。

毎月定例行事

- 上田宗箇流茶道稽古日
毎月一回 第四金曜日午後一時から

*お抹茶と和菓子を楽しみに楽しまつて下さい。
ご参加下さい。

- 御詠歌の会
第二金曜日午前十時より自主練習

第四金曜日午前九時より講師を招いて練習 昼まで
◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師の都合により変更する場合もあります。初めて参加される方は、電話にてご確認下さい。

毎週定例行事

- 暁天坐禅会 月曜日〜金曜日
毎朝午前五時半〜六時十分まで
- 水曜坐禅会 午後七時より
坐禅・茶話会 終了八時半
- 婦人坐禅会 毎週金曜日
午後一時より坐禅・茶話会終了三時
(第一金曜日のみ坐禅の後、写経・茶話会)

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でも結構です。お寄せ下さい。